

令和7年度第2回薩摩川内市原子力安全対策連絡協議会会議概要

開催年月日 令和7年 9月19日（金） 午後1時30分～

開 催 先 薩摩川内市消防局 2階多目的ホール

1. 開 会
2. あいさつ
3. 紹 介
4. 協 議

(1)川内原子力発電所周辺環境放射線調査結果(令和7年1月～3月)について

【質 疑】質疑後、了承

<委 員>放水口ポストにおける計数率の連続測定だが、前回までの範囲の上限が4710cpmで、今回の上限が1320、約3400の差があるが、これも、異常は認めないということだが、上限の値は幾らまであるのか、上限は決まっていないのか。前回の範囲に入っておけば、異常は認めないということで、同程度のレベルということなのか。

<鹿児島県>放水口ポストの計数率についてのご質問だが、これは発電所の放水口のところで、発電所から放出される海水中の放射線量を係数率で測っている。

この4710というのは、過去、発電所敷地内で結構雨が降って、その際に天然の放射性核種が放水口の方に大きく流れ込んで、その影響で計数率が上がったというのが4710という数字になる。

これについては、自然の放射性物質も含んだ数値になるので、そもそもの基準とか上限とかそういうものはない。今回もちょっと1320という数字、ちょっと上がっているが、これもやはり敷地内に降った雨によって、天然の自然放射性物質が放水口のほうに流れ込んで、そのために若干の上昇があったというような状況である。

(2)川内原子力発電所温排水影響調査結果報告について(令和6年度冬季)

【質 疑】特になし 了承

(3)川内原子力発電所の運転状況について

【質 疑】特になし 了承

(4)川内原子力発電所令和6年度第4四半期原子力規制検査報告書について

【質 疑】特になし 了承

5. その他

(1)川内原子力発電所の原子力規制検査における指摘事項について

【質 疑】特になし 了承

(2)玄海原子力発電所周辺上空における飛行中の機体が発する3つの光の確認について

【質 疑】質疑後、了承

<委 員>ウクライナ戦争ではないが、やはりドローンが原発内に飛んでくるとするのは非常に不安を感じているが、この3機のドローンを飛ばした犯人というか、そういうものは分かっているのか。それと目的は何だったのか。

<九州電力>まず、最初に我々のほうからドローンみたいなものということで発表したが、実はそのもの自体をちゃんと確認できていないと言うことで、後に三つの光というふうになっているので、ドローンと確定したわけではないということを御理解していただきたいということと、現在、警察のほうで調べをしているところなので、我々のほうから何か内容について話すことができるかという、今できる状況ではないので、ご理解いただきたい。

<委 員>要望である。まずはこういう飛来物があっても、デジカメで撮るとかそういうものではなくて、しっかりとした監視できる、より高度な防犯カメラというか、そういうものを事業者としては設置頂きたい。それと、これは国の安全に関することなので、国策である電気事業をやっているので、知事及び市長においては、国においてこういうことへの対処に向けた対策の早期要望をしていただければと思う。

<九州電力>カメラはいろいろ考えているが、今できるということで、先ほどご説明した内容を至急手配しているというところである。それと今後どのようにしていくかというのは、先ほどご説明した警備連絡会議等で協議していくことになると思うので、また何かお話ができるような状況になったら、こちらのほうから説明をさせていただきたいと思う。

<市 長>委員の発言内容については、私のほうから、市のほうから県のほうにも伝えたいと思う。

【全般における質疑】

<委 員>お願いだが、最初に質問が出た放射線量の件だが、やはりいつも発表されるときは許容範囲内ということで、ずっと流れてしまうが、やはり極端に数値が何千も違う場合は、それなりに分析をされていると思うので、最初の説明のときに、ここはちょっと範囲内であるが、かなり数値が違っていますと、こういうときにはこういう問題で発生してこういう状況ですということを最初に言ってもらえればこういう質問も多分出ないと思うので、我々素人は数字が違っていると本当に実際分析しておられるんだろうかというふうに思ってしまうので、是非最初でちょっとつけ加えてもらえば問題ないと思うので、次回からはよろしく願いしたい。

<市 長>次回の説明から、個々の全体の説明についてそのような取扱いとする。

6. 閉 会